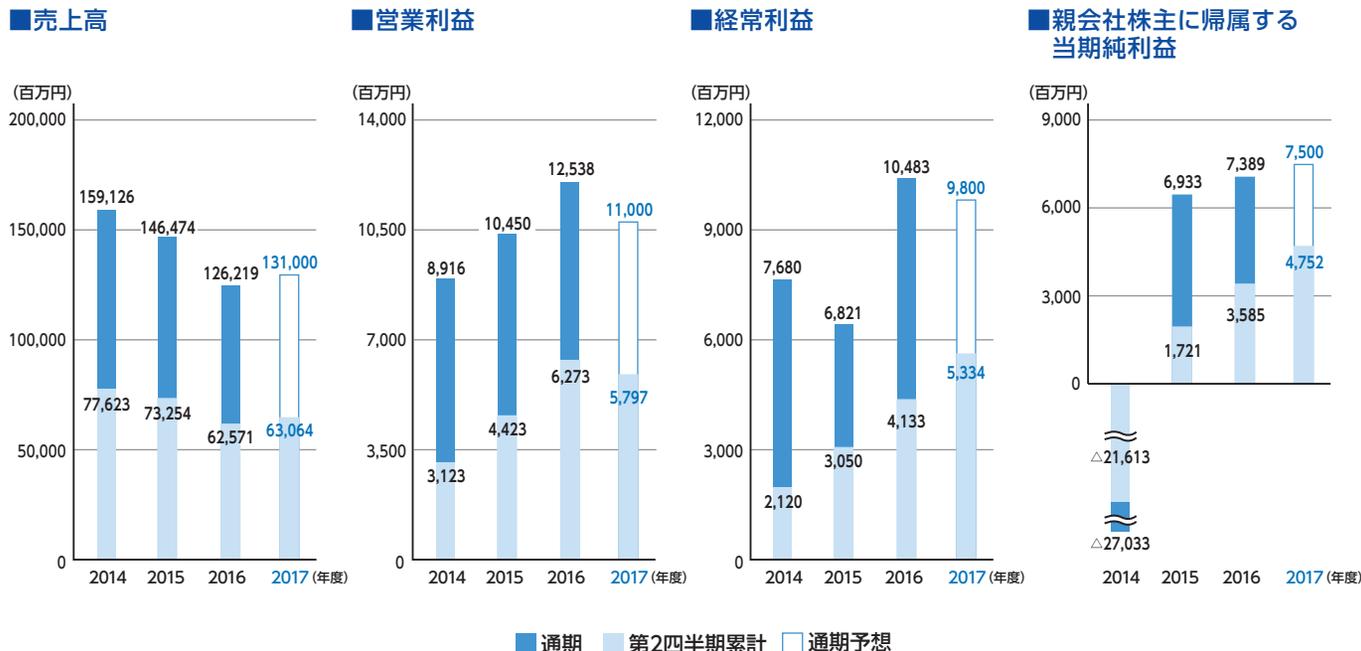


# 株主通信

平成29年4月1日～平成29年9月30日

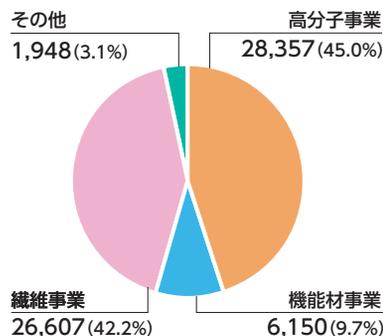


# 連結業績の推移

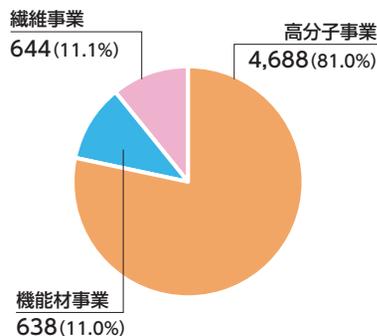


## ■セグメント別 当第2四半期累計期間における売上高・営業利益 (単位:百万円)

### 売上高(構成比)



### 営業利益(構成比)



### 売上高

合計 63,064百万円

### 営業利益

合計 5,797百万円

※セグメント別の営業利益及び構成比は、調整額調整前の数値で表示しています。(合計5,785百万円)。

※営業利益(構成比)の「その他」は営業損失となっておりますので、表示していません。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

# 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろよりご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、第208期第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から同9月30日)の業績につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、好調な企業収益、雇用環境の改善などを背景に、引き続き緩やかな景気拡大の動きとなりました。海外では、欧米の企業業績は堅調さを維持しており、中国を始めとするアジア経済も総じて回復基調で推移しました。しかしながら、政情面の不安定要素や地政学リスクの高まりなど、世界経済の先行きの不透明感は強まっています。

このような状況の下、当社グループは、本年5月に公表しました中期経営計画「G」round 20 ~to The Next Stage(ジーラウンド・トゥエンティ ~トゥ ザ ネクスト ステージ)」に掲げる3つの「G」(Growth, Global, Governance)の実現に努めてまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は63,064百万円(前年同四半期比0.8%増)、営業利益は5,797百万円(同7.6%減)、経常利益は5,334百万円(同29.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,752百万円(同32.5%増)となりました。

なお、中間配当につきましては、引き続き見送ることとさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後につきましては、当社グループは、引き続き「G」round 20 ~to The Next Stage)に掲げた目標の実現に向け、事業基盤を固め、成長に向けた施策を確実に実行してまいります。

具体的には、フィルム事業では、包装分野は、原燃料価格や為替の変動に柔軟に対応し、シェアの維持に努めるとともに、バリアフィルム「エンブレムHG」など高付加価値品の拡販に注力します。工業分野は、「ユニアミド」や「ユニピール」などの高付加価値品の拡販により、収益強化を進めます。また、海外でのナイロンフィルムの生産能力増強に向けて、引き続き投資の検討を進めます。樹脂事業では、ナイロン樹脂は、ナノコンメタリックなど高付加価値品の海外拡販を強化し、「Uポリマー」は、引き続き海外拡販や用途拡大を進めるとともに、生産能力の増強を図ります。また、合弁会社UNITIKA ADVANCE(THAILAND)CO., LTD. (ユニチカアドバンス(タイ))を2月に設立し、海外拠点の拡充を更に進めるとともに、海外マーケティングの強化を図ります。不織布事業では、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、建築資材関連需要の取り込みを図ります。また、海外では、タスコでの生産能力増強を梃子にして、カーペット用途、自動車部品用途で拡販を進めます。

機能材事業では、ガラス繊維事業の産業資材分野は、提案型の営

業活動による顧客深耕や新規案件の早期取り込みによる拡販を目指します。電子材料分野のICクロスは、超薄物タイプなど高付加価値品の商品構成を高めることにより収益の拡大に努めます。ガラスビーズ事業では、自動車部品用途や電子部品用途での拡販を更に進めます。活性炭繊維事業では、フィルターの高性能化を更に進め、水栓一体型を中心に浄水器用途での拡販や海外での事業開拓を進めるとともに、VOC除去フィルターでは、引き続き中国を中心に海外市場への展開を進めます。

繊維事業では、産業繊維事業のポリエステル短繊維は、共重合技術などを活かした高付加価値品の開発・拡販を加速します。ポリエステル高強力糸は、土木・建築分野の拡販を進めながら、高付加価値品の比率を高め収益体質を更に強化します。衣料繊維事業は、原糸・原繊開発に注力するとともに、海外サプライチェーンの活用を更に加速します。

財務体質の健全化につきましては、平成29年6月30日にC種種類株式の取得及び消却を完了しました。今後も在庫削減等の運転資金の効率化に努め、有利子負債の削減を進めます。

ガバナンスにつきましては、コンプライアンス体制の強化やPDCAサイクルの全社浸透等により、事業統制力の向上とリスクマネジメントの徹底を更に推進してまいります。また、行動基準を見直し、コンプライアンス意識の再徹底を行い、不正を許さない組織風土への改革を進めてまいります。

なお、中期経営計画の最終年度となる平成31年度は、当社にとって創立130周年、かつ、ユニチカ発足50周年の節目となります。当社を支えてくださっている皆様のご期待に応えられるように、更に努力してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年12月



代表取締役社長

注連 浩行

# セグメント別の状況

## 高分子事業

フィルム事業では、包装分野は、国内ではコンビニエンスストア向け商品などの需要が好調であったため、前期に引き続き好調に推移しました。海外でも、アジア市場の好調を背景に、インドネシア子会社のP.T.EMBLEM ASIA（エンブレムアジア）の生産量を拡大し、販売数量を更に伸ばしました。バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」など高付加価値品の国内外での販売拡大も収益に寄与しました。工業分野は、半導体用途など電気・電子機器分野の需要が好調で、耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」やシリコンフリー離型PETフィルム「ユニピール」などの高付加価値品の販売も堅調に推移しました。この結果、事業全体で増収となりましたが、原燃料価格上昇などの影響もあり、減益となりました。

樹脂事業では、熱可塑性飽和共重合ポリエステル樹脂「エーテル」や環境配慮型の水性エマルジョン「アローベース」は、太陽電池用途などで需要が減少し、ナイロン樹脂は、競争激化の中、原燃料価格の影響などを受けました。当社独自のポリアリレート樹脂「Uポリマー」



コットンスパンレース  
「コットエース」

マー」は、情報端末機器用途や海外向け自動車用途で好調に推移しました。この結果、事業全体で増収減益となりました。

不織布事業では、ポリエステルスパンボンドは、農業用途やインテリア関連分野などで堅調でしたが、土木や建築材料用途などで低調に推移しました。海外では、タイ子会社のTHAI UNITIKA SPUNBOND CO.,LTD.（タスコ）は、土木やカーペットなどの用途で販売が堅調に推移し、また、新機台が稼働を開始しました。コットンスパンレースは、国内のスキンケア用品など生活資材用途で引き続き好調に推移し、輸出も増加しました。この結果、事業全体で売上は横ばいでしたが、大型設備投資の償却負担増などの影響もあり、減益となりました。

以上の結果、高分子事業の売上高は28,357百万円（前年同四半期比2.9%増）、営業利益は4,688百万円（同10.1%減）となりました。



ポリアリレート樹脂「Uポリマー」



バリア性ナイロンフィルム  
「エンブレムHG」

### ■高分子事業 売上高・営業利益

売上高

合計 28,357百万円

営業利益

合計 4,688百万円

# セグメント別の状況

## 機能材事業

ガラス繊維事業では、産業資材分野は、建築土木用途の販売が低調でしたが、環境関連用途は堅調に推移しました。電子材料分野のICクロスは、情報端末機器用途での需要が回復し、超薄物タイプなど高付加価値品の販売が増加しました。

ガラスビーズ事業では、自動車部品用途や電子部品用途で売上が増加し、ロードマーキング用途や反射材用途も堅調に推移しましたが、ユーティリティコストの上昇などの影響を受けました。また、活性炭繊維事業では、主力の浄水器用途で需要が回復し、自動車向けVOC除去フィルターや工業用フィルター用途は前期に引き続き堅調に推移しました。

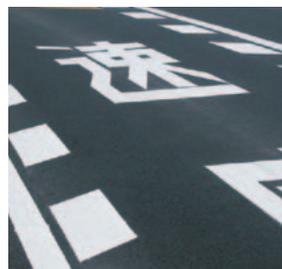
以上の結果、機能材事業の売上高は6,150百万円(前年同四半期比4.0%増)、営業利益は638百万円(同14.0%増)となりました。



活性炭繊維フィルター



ガラス長繊維



ガラスビーズ「ユニビーズ」  
使用道路(白線)



高性能VOC除去シート

### ■機能材事業 売上高・営業利益

売上高

合計 6,150百万円

営業利益

合計 638百万円

# セグメント別の状況

## 繊維事業

産業繊維事業では、構造改革の実施により事業規模が縮小したものの、ポリエステル短繊維は、複合繊維などの高付加価値品の販売が堅調に推移し、前年同期並みの売上を確保しました。ポリエステル高強力糸は、建築資材用途などで低調に推移し売上が減少しましたが、高付加価値品の販売は伸張し、計画通りの収益を確保しました。

衣料繊維事業では、ユニフォーム分野はワーキング用途を中心に好調に推移しました。レディス分野や寝装分野は、需要が低迷し、売上は減少しました。海外では、デニムの需要が回復し、好調に推移しました。

以上の結果、繊維事業の売上高は26,607百万円(前年同四半期比2.9%減)、営業利益は644百万円(同20.1%減)となりました。



衣料用途



土木用途



建築工事中用防災メッシュシート

### ■繊維事業 売上高・営業利益

売上高

合計 26,607百万円

営業利益

合計 644百万円

## その他

その他の事業につきましては、売上高は1,948百万円(前年同四半期比14.4%増)、営業損失は185百万円(前年同四半期は316百万円の損失)となりました。

### ■その他 売上高・営業損失

売上高

合計 1,948百万円

営業損失

合計 185百万円

# 財務諸表(要旨)

## 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	101,595	89,166
固定資産	110,277	110,248
有形固定資産	103,791	103,432
無形固定資産	2,035	2,182
投資その他の資産	4,450	4,633
<b>資産合計</b>	<b>211,872</b>	<b>199,414</b>
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	38,194	34,909
固定負債	128,414	127,574
<b>負債合計</b>	<b>166,608</b>	<b>162,483</b>
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	40,572	32,377
その他の包括利益累計額	1,269	1,187
非支配株主持分	3,422	3,365
<b>純資産合計</b>	<b>45,264</b>	<b>36,930</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>211,872</b>	<b>199,414</b>

### 資産合計

**1,994億14**百万円  
(前期末比 124億58百万円 減)

主として現金及び預金が減少したことにより減少しました。

### 負債合計

**1,624億83**百万円  
(前期末比 41億24百万円 減)

主として長期借入金が減少したことにより減少しました。

### 純資産合計

**369億30**百万円  
(前期末比 83億33百万円 減)

主としてC種種類株式の取得及び消却により株主資本のうち資本剰余金が減少したことにより減少しました。

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

# 財務諸表(要旨)

## 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	62,571	63,064
売上原価	46,719	47,316
売上総利益	15,851	15,747
販売費及び一般管理費	9,578	9,949
営業利益	6,273	5,797
営業外収益	502	607
営業外費用	2,643	1,070
経常利益	4,133	5,334
特別利益	192	415
特別損失	328	248
税金等調整前四半期純利益	3,996	5,502
法人税等	366	751
四半期純利益	3,630	4,750
非支配株主に帰属する四半期純利益		
又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	44	△2
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,585	4,752

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

### 親会社株主に帰属する 四半期純利益

**47億52**百万円

(前年同四半期比 11億67百万円 増)

外貨建て資産の為替影響の改善や支払利息の減少などにより増加しました。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,154	3,688
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,524	△1,564
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16,348	△15,652
現金及び現金同等物に係る換算差額	△529	△64
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△10,247	△13,592
現金及び現金同等物の期首残高	42,023	36,890
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,776	23,297

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

### 財務活動による キャッシュ・フロー

**△156億52**百万円

(前年同四半期は、163億48百万円)  
の資金の減少

C種種類株式の取得及び消却などにより減少しました。

2018年ユニチカマスコットガール

## 19代目 新ユニチカマスコットガール誕生 期待の新星・玉田志織(15)

2018年新ユニチカマスコットガールが決定しました。宮城県出身で現在15歳の高校1年生、玉田志織です。ユニチカマスコットガールは、『「若く将来性のある少女たち」に最終商品を持たない素材メーカーであるユニチカと多くの人々を結び架け橋になってもらい、企業のイメージアップを図る』というコンセプトのもと1974年に誕生しました。当時としては新しい企業キャンペーンの手法であり、キャンペーンガールの先駆けとなりました。新ユニチカマスコットガールの玉田志織は、初代風吹ジュンさんから数えて19代目となります。2018年、当社カレンダーや広告などのPR活動でお目見える玉田志織の活躍にどうぞご期待ください。

2018 UNITIKA MASCOTGIRL  
Crystal Smile  
**SHIRI**  
Tamada



お問合せ先▶経営企画部  
広報グループ TEL:06-6281-5695  
www.unitika.co.jp

## 3Dプリンター用「感温性フィラメント」 造形後に形状を自由に変更できる 不思議なプラスチックを開発

企業や個人に普及が進む材料押出型3Dプリンター用のフィラメント分野で、新たな材料を開発しました。特徴は“感温性”です。3Dプリンターで造形した後も、ひと肌やお風呂の湯温など安全な温度で温めることで形状を自由に変形させることができ、冷やすことでその形状を保持します。さらに、熱湯などで高温セットすることで硬化し、その後は熱変形しなくなります。素材は当社独自の特殊ポリエステル樹脂であり、高度処理によりフィラメントには耐熱性を付加しているため、3Dプリンターでの造形中には軟化することがなく、スムーズに作業出来ます。形状変化が可能な感温性を活かし、フィギュア制作や、現場で形状を修正できる可変性の工業用治具などへの用途展開が期待されます。

### 3D Printer Filament



お問合せ先▶産業繊維事業部  
繊維資材営業部  
産業資材グループ(大阪) TEL:06-6281-5623  
東京繊維資材グループ TEL:03-3246-7551  
3dprinter-filament@unitika.co.jp

# 株式の状況 会社の概要

## 株式の状況 (平成29年9月30日現在)

1. 発行済株式の総数	普通株式	577,523,433株
	A種類株式	21,740株
	B種類株式	5,759株
*普通株式は、平成29年10月1日をもって、10株を1株分に株式併合しました。		
2. 株主数	普通株式	45,423名
	A種類株式	1名
	B種類株式	2名

### 3. 大株主

株主名	株式数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	普通株式 33,648 <small>千株</small>	5.83%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	普通株式 26,050	4.51
株式会社三菱東京UFJ銀行	普通株式 23,345 A種類株式 21	4.05
MORGAN STANLEY & CO.LLC	普通株式 12,743	2.20
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505325	普通株式 10,834	1.87
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	普通株式 10,833	1.87
ユニチカ従業員持株会	普通株式 10,401	1.80
GOVERNMENT OF NORWAY	普通株式 8,499	1.47
野村證券株式会社	普通株式 8,268	1.43
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	普通株式 8,022	1.39

(注1) 持株比率は自己株式(821,910株)を控除して計算しております。

(注2) 上記A種類株式(株式会社三菱東京UFJ銀行 21,740株)のほか、B種類株式(株式会社みずほ銀行 3,635株、三菱UFJ信託銀行株式会社 2,124株)を平成26年7月31日に発行しました。

(注3) A種類株式及びB種類株式は、優先株式であり、議決権がありません。

## 会社の概要 (平成29年9月30日現在)

社名	ユニチカ株式会社
創立	明治22年6月19日
資本金	100,450,000円
本店	兵庫県尼崎市東本町一丁目50番地
大阪本社	〒541-8566 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号 電話06-6281-5722 (人事総務部法務グループ)
東京本社	〒103-8321 東京都中央区日本橋本石町四丁目6番7号 電話03-3246-7540 (人事総務部東京総務グループ)
研究所	中央研究所(宇治市)
事業所	宇治事業所・岡崎事業所 垂井事業所・坂越事業所
従業員数	連結 3,693名 単体 1,109名

## 取締役及び監査役

(平成29年9月30日現在)

代表取締役社長執行役員	注連 浩行
代表取締役専務執行役員	安岡 正晃
代表取締役常務執行役員	上埜 修司
取締役 上席執行役員	長谷川 弘
取締役 上席執行役員	榎田 晃
社外取締役	半林 亨
社外取締役	古川 実
監査役(常勤)	永田 直彦
監査役	小畑 政信
社外監査役	河内 義人
社外監査役	福原 哲晃

## 執行役員 (平成29年9月30日現在)

上席執行役員	森川 光洋
上席執行役員	富岡 弘之
上席執行役員	細田 雅弘
執行役員	竹歳 寛和
執行役員	岡 和貴
執行役員	北野 正和
執行役員	久内 克秀
執行役員	吉村 哲也
執行役員	今村 高之
執行役員	松田 常俊

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日

中間 9月30日

公告方法 電子公告（当社ウェブサイトに掲載）

<https://www.unitika.co.jp/ir/notice/>

ただし、事故その他やむを得ない事由に

よって電子公告による公告ができない場

合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
電話 0120-094-777（通話料無料）

### （ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。

## 株式に関する『マイナンバー制度』のご案内

マイナンバー制度の導入により、市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。このため、株主さまがお取引している証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

### ■株式関係業務におけるマイナンバーの利用

○法令に定められたとおり、支払調書に株主さまのマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

※主な支払調書

- ・配当金に関する支払調書
- ・単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

### ■マイナンバーのお届出に関するお問合せ先

○証券口座にて株式を管理されている株主さま

お取引の証券会社にお問い合わせください。

○証券会社とのお取引がない株主さま

以下のフリーダイヤルまでお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 フリーダイヤル 0120-094-777

